

『目標に向かって』

兵庫県

照道館樋ノ口少年剣道会

小学6年 白石知穂

「お願いします」「ありがとうございました。」

礼に始まり礼に終わる

この短い文章ですが、僕はこの言葉が大好きです。よし今日も頑張るぞと気持ちに、スイッチが入ります。

剣道と言えば、防具をつけ、竹刀で打ち合う事だけではなく、剣道に含まれているものはたくさんあると思う。例えば下足の整理や掃除、道場という特別な場所での過ごし方、約束事、立ったり、すわったりの所作、礼儀作法、剣道具を扱うための作法、それらの成り立ちである歴史なのです。たくさんの決まり事を頭に入れ、日一日頑張っています。僕には目標があります。そのためにも負けられません。

春に先生が

「今年は東京に行くからな。武道館に行くぞ。きびしいけい古になるがついてくるか。」と、いつもと違う先生の覚悟が見えた。

「え、東京？」おどろきと共に暗く不安な気持ちにおそわれた。母が、

「先生、東京はちょっと。」

と言っているのが聞こえた。すると先生が真剣な表情で、

「親が子供を信じてやらなかったらだれが子供を信じるんや。」

それを片すみで聞いていたぼくは、ハッとした。ぼく自身が自分達の力を信じていないのに、先生はぼく達を信じてくれているんだ。胸が熱くなった。仲間の力を信じる事が出来ていない自分がある事に、はずかしく情けなかった。帰り道、母が、本番まで時間がない、出来るだけ全面協力するからと言ってくれた。母も覚悟を決めた重みのある言葉でした。不安はあるけどうれしかった。夢の武道館に行ける。正直今の力では武道館に行けるとは思っていませんでした。一九六四年、東京オリンピックの年に、武道のために建設された立派な建物です。オリンピックに剣道はありませんが、武道の聖地であること、その場所に立てるワクワクドキドキ感は、鳥はだが立つほどうれしかった。それからは必死で練習しなければと、仲間と汗を流し、一致団結していく。今年は毎日暑い日が続く中での練習、倒れそうになる寸前、本当につらかった。苦しかった。暑さ苦しきで、汗か涙か分からないほどだった。三十分おきの水分補給、大きな声を出し、顔は真っ赤かになる。先生も父兄も皆一緒に戦っているのだ。弱音は吐けない。一日一日と夢の舞台が近づいてくる。ついに出発。そして本番の開会式。やはり来てよかった。すばらしく感動しました。開会式が終わり、すぐに一回戦。ゆっくりする時間等ない。「照道館さん並んで下さい。」ついに

出番が来た。何とか突破。次の試合まで先生に注意を受け、準備をした。残念ながら負けてしまったが、悔いはない。目標に向かって、仲間とも団結出来、五人で厳しい練習を頑張る事が出来た。先生がいつも言っている、けい古はうそをつかない、よく分かった気がしました。目標を持って剣道に打ちこむことが、どんなに大切か深く感じた瞬間だった。試合に出る人は選ばれてきた人達、強みもあれば弱みもあるはず。気おくれせず、自分の強みを出し切る事を学んでいきたい。自分を知り、相手を知り、経験を生かす事がこれからも自分らしく生きていくためには、大切な事だと思う。武道で身につけた考えは一生の宝だと思っています。たくさんのお事を教えていただき、学び、精神的にも強くなり、剣道をこれからも続けていくためには、自分自身が頑張っていかなければならない。覚悟はしている。

大好きだから。つらいとか苦しいとか思うのではなく、幸せだと感じ将来自分の力になることを信じたい。そして目標の警察官になる夢を持って、日々の練習に気をぬかず、これからも剣道で一本邁進して行きたいと思います。